



平成 29 年 10 月 27 日

岡山地域芸術文化資源に「気づく」「活用する」「引き継ぐ」 国吉康雄から受け継ぐ教育精神

岡山大学大学院教育学研究科の「国吉康雄を中心とした美術鑑賞教育研究寄付講座」では、講義において、国吉康雄の作品と研究資料をコンテンツとした体感型イベント「国吉祭」を企画・実施しています。今年の講義では産官学・市民協働事業として、国吉康雄作品を使用した「オリジナル演劇コンテンツと関連事業の開発」を組成。地域の芸術文化資源を生かした地域課題を考察するための事業として「オリジナル舞台劇」を中心に企画・運営しています。

本日は、これまでの実績と本年度の取り組みについて紹介します。

国吉康雄を中心とした美術鑑賞教育研究寄付講座と今年の活動について

本講座は、公益財団法人福武教育文化振興財団と公益財団法人福武財団の寄付により、2015年10月に岡山大学大学院教育学研究科に設置されました。岡山市北区出石町出身のアメリカを代表する洋画家で人権・社会活動家、教育者である国吉康雄(1889年 - 1953年)の研究と顕彰活動について、国吉作品を日米最大規模で有する岡山から、教育連携を中心に発信することを目的としています。

昨年度は、本講座が主催する一般教養科目「クリエイティブ・ディレクター養成 (CD養成)」を中心に学生34人が、10月21日の前夜祭から、22~23日の期間、ルネスホール(岡山市北区)にて、国吉康雄の作品と研究資料をコンテンツとした体感型イベント「国吉祭」を開催しました。これは、出石町を中心とした市民団体の手により2013年から毎年続けられてきた企画で、昨年度より本講座の学生らが引き継ぎ、岡山県や岡山市、地域企業の支援を受けて開催したものです。

これに至るために～地域芸術文化資源という言葉の認知

本講座では、地域と芸術作品、文化財との関係性、その活用法を、地域芸術文化資源という言葉を使って考察してきました。ここで注目いただきたいのは、地域の芸術作品や文化財を語る上で、資産ではなく資源という言葉を用いたことです。通常、芸術作品や文化財はそれ自体の価値が広く認められ、資産として認識されているものです。しかしその根拠は、誰それが描いた、作った、歴史的に価値あるものだからという学術的な検証によるものです。講座では、これを敢えて「資源」と呼ぶことで、CD養成の受講生をはじめとし、関係する団体、市民にその活用法を考えるという問いを投げかけました。



PRESS RELEASE

本講座の特色・問いかけと対話の繰り返し

CD養成では「問いかけ」と「対話」を促し、学生自身の「行動と探求」を求めてきました。「人は誰もが、それぞれのクリエイティビティを有している」と説き、それを受講生たちにさまざまなワークショップ、フィールドワーク、ゲストとの対話を通して実感するような以下のプログラムを提供しました。

- ▶ ワークショップ 対話型美術鑑賞、演技、シナリオ読解、コラージュ作成
- ▶ フィールドワーク(取材・地域、施設見学) 出石国吉康雄勉強会、備前岡山獅子舞太鼓歌保存会、豊島住民協議会と参拝施設の見学、ベネッセアートサイト直島見学
- ▶ ゲスト講師 NY在住の日系アーティストと日系研究者による講演と質疑応答

これらのプログラムの中で繰り返し確認されたのは「多様性と個性の尊重」です。例えばCD養成は一般教養科目であるため、その受講生は岡山県内からの通学生に加え、県外からの移住学生や異なる学部(昨年の受講生は、教育学、法学、文学、経済学、工学、理学、医学部生の1年生から4年生、34人が受講)で構成されていました。この多様性を生かしながら個性を尊重することでチームプレイを育み、そのチームプレイにより地域芸術文化資源の活用の実践を行うための場として組成されたのが「国吉祭」です。

受講生による「国吉祭2016」の企画と運営

受講生たちは、国吉祭の冠となる国吉康雄に関する調査を通じて、さまざまな個人・団体との関係性を築きながら、企画を立案。さらに、会場の設計や宣伝計画、予算の管理を行い、この運営と総括を講座のプログラムとして体験しました。

昨年度の国吉祭では、国吉康雄の紹介にとどまらず、地域の祭を目指しました。国吉康雄の故郷である出石町の協力のもと、江戸期から伝わる山車の展示や、獅子舞の演舞を披露したほか、会場には、国吉康雄作品を活用した学生発案による櫓の展示や、輪投げ、お面屋台といったさまざまな祭縁日の雰囲気を作り出されました。また同じ会場では講座受講生だけの企画だけではなく、岡山大学の文化系の学生活動団体から提案されたJAZZライブや舞踏講演、これまでの国吉康雄研究・顕彰活動に携わった個人・団体の活動や作品展示もあり、受講生と地域市民との交流を深め、認知を新たにしました。また、講座が行ってきた国吉康雄研究、教育活用の成果も展示報告がされ、これらの活動が学術的な取材・研究活動の上に成り立っていることも紹介しました。

国吉祭2016の残したものの、その先にあるもの

国吉祭を準備・運営という実践的活動を通して受講生たちは、

- ▶ 地域にある資源
- ▶ 大学と地域の関係
- ▶ 個性が担える役割



PRESS RELEASE

について、考察し、顕彰することになります。

例えば、国吉祭の組成のための取材活動から、国吉が少年時代を過ごした明治期の伝統風俗と学生たちがまず触れ合い、学び、国吉祭の会場という《場》において、一般来場者と岡山に古くから伝わる伝統の継承という課題を共有します。また、これをメディアが取り上げ、さらに大学から報告として発信することにより、この活動に興味を持つ学生が今年度の講義に参加したり、地域からの支援が広がったという効果が見られました。

本講座では、出石国吉康雄勉強会や岡山市立岡山後楽館高等学校《クニヨシ部》という国吉康雄顕彰団体との連携により、本講座が国吉康雄をテストケースとした芸術文化資源と地域とのマッチングの役割を担いました。本講座の試みと受講生たちのアイデアが展開された昨年の国吉祭会場には、子供から大人まで幅広い層が訪れ、300人以上が来場。59人の岡山大学生と後楽館高校生がスタッフとして参加しました。また、これらの活動をベースに、岡山市文化振興課への提言書を受講生が作成、提出しました。

このように本講座では、文化資源を活用したイノベーションを起こすための土壌を岡山に創出するため、地域のパートナーシップと若者世代のクリエイティビティをマッチングさせる試みを実践してきました。この活動を通じ、岡山で学ぶ学生たちにセンスの練達と刺激を与える有効的な《場》を提供し、結果、岡山の若者たちと地域、世代の橋渡しを行うこととなりました。

昨年度に獲得したこの地域とのパートナーシップと、受講生たちが育んだクリエイティビティをさらに機能的に運用するために企画、運用されているのが、本年度のプログラムとなります。

今年度のプロジェクト

本講座では、これまでの活動で獲得した産官学、市民とのつながりを、それぞれとの協働事業として組成し、4月から国吉康雄作品を使用した「岡山地域芸術文化資源を活用したオリジナル音楽舞台劇『老いた道化の肖像をめぐる幾つかの懸念』の製作及び関連(教育・地域連携)協働事業」を、地域の芸術文化資源を活用しての地域課題を考察する試みとして展開しています。

これは、昨年実施した国吉康雄研究・顕彰活動を基材とした地域コンテンツを活用した人材の育成と、地域とのマッチングプログラムを発展させたもので、『岡山市のクリエイティブセクターの活性化を図るプログラム』として実施するものです。

本プロジェクトは昨年に引き続き、本講座が提供するCD養成の受講生に加え、昨年のCD養成の受講生を中心とした「岡山市のクリエイティブセクターの活性化を図るプログラム 自主ゼミナール(以下、自主ゼミ)」の演習プログラムとして制作しています。CD養成の受講生(今年度の受講生は、教育学、法学、文学、経済学、工学、理学、薬学、農学、医学部生の1年生から4年生、25人が受講)は、昨年同様、講義内で各自のクリエイティビティを磨くためのプログラムと本作の理解を深めるための講義を受けながら、クリエイティブ産業分野における人材育成のプログラムを体験します。また、自主ゼミには一般企業で働く



PRESS RELEASE

社会人や高校生、昨年の国吉祭に関わった岡山大学生が中心となって、舞台製作や関連事業に参加しています。

「国吉祭2017」の概要

舞台作品はオリジナルで製作し、『芸術表現が管理される世界での、人間の精神の尊さ、表現の重要性』をテーマに、国吉康雄の油彩画作品の模写作品《Mr. Ace》と、コンテンポラリーダンスを舞台表現に取り入れた演劇作品です。この作品には、東京で活動する俳優やアーティストやクリエイターが、「国吉康雄や瀬戸内のアートが好き・岡山に自身のルーツがある」といった理由で制作に参加。本学からは講座生以外にも、邦楽部や交響楽団の有志が参加し、東京と岡山のスタッフが共に舞台を作り上げていきます。

また、制作する演劇作品の重要なテーマとなる国吉康雄作の絵画を用いた「美術鑑賞教育プログラム」と舞踏ワークショップを、本講座受講生が企画。制作する演劇作品の理解のためのプログラムと、宣伝イベントとを合わせ、岡山県各地と国吉康雄関連企画展を開催する和歌山市内で実施予定。地域との連携を深めるための活動を合わせて行います。

さらに、舞台以外にも会場となるJホールの周りでアートイベントを開催します。このイベントは国吉康雄にとどまらず、備前岡山獅子舞太鼓唄の紹介など、地域の芸術資源や文化財を広く市民に認知していただくための告知イベントです。まず、知ること。そして発見する。つまり、気づくという意識を学生たちの活動を通して、市民の方に届けたいと考えています。

本年度実施プログラムの目的

本講座が実施するプログラムの目的は、岡山の既存の芸術文化資源を活用した地域コンテンツの開発と運用を行うことで、芸術文化都市としての《岡山》が有する本来のポテンシャルを、岡山で学ぶ学生や岡山で暮らし、働く市民、地域経済、コミュニティーによって、正しく認知・評価されることにあります。

昨今、地域のオリジナリティーが求められながらも、市民の文化的活動を満たすものの多くは、全国(流通)規格のアイテム(服やデザイン物、商業映画など)が主です。岡山でも《オリジナル》というべき地域の芸術文化資源への理解や有効的な運用は、その資源量や質の高さから考えた場合、低いと言えるでしょう。岡山に古くから存在し、岡山から生み出された技法、郷土の作家、作品を、地域独自のアイデンティティーやアイテムとして誇りに思い、語り継ぎ、地域の基盤を支えうる資材として運用しうる可能性に多くの市民が興味を示せずにあります。結果、有効な資源の有効的な運用が行われてこなかった現状があり、岡山が多様なポテンシャル(学都、医療先進、交通のハブ、環境、食など)に恵まれながらも、文化や教育などの面では、そのポテンシャルに見合わぬ評価に甘んじている遠因となっていると考えます。

本講座では、「育てる」をこのプログラムのテーマとし、受講生や外部スタッフと企画に当たっています。



PRESS RELEASE

キーワード「育てる」

➤ 知りたい・見つけたいを育てる

国吉祭は国吉康雄にとどまらず、備前岡山獅子舞太鼓唄の紹介など、地域の芸術資源や文化財を広く市民に認知していただくための告知イベントです。まず、知ること。そして発見する。つまり、気づくという意識を学生たちの活動を通して、市民の方に届けたいと考えています。

➤ 作りたい・使いたいを育てる

地域の芸術資源や文化財は、地域でまず活用すること。これが地域の芸術資源や文化財に新たな価値を与えることとなります。これを本イベントで担うのは、岡山に学問を学ぶためにやってきた大学生です。地域の芸術資源や文化財と、大学生という「人的資源」のコラボレーションが、学びながらイベントの組成、運営を行うというこの企画を支えています。

➤ 守りたい・残したい・伝えたいを育てる

地域の芸術資源や文化財を保全し、次世代へ引き継ぐための意識と知識、技術を育てたい。ここまでにお話しした、知りたい・見つけたい・作りたい・使いたいを意識すると、守りたい・残したい・伝えたいに繋がるのではないかと。実は、この意識を育むことが本プロジェクトの最大のテーマです。どういう人材育成プログラムが必要で、そのトレーニングや活動を支えるためにはどういった場や公的な支援システムが必要なのか。これを検証し、発信いたします。

市民の文化への眼差しを高めるための取材・検証活動として

本講座では、都市や地域の課題に対して、文化を基材とした新たなイノベーションを生む若者世代の育成と活躍の環境を整える必要を訴え、《国吉康雄コンテンツをはじめとした地域の芸術文化資源》と、岡山大学の《人材と知財》、岡山の人的・経済的《地域力》のマッチングを積極的に行っています。講座を通じ、市民の文化的生活の充実とクリエイティブセクター(人材・関連産業)の育成、活性化、関係産業の成長の可能性を本プログラムの運営を通して取材。受講生やスタッフ、関係団体が活動を通して発見した課題やデータを収集し、その検証を、12月以降の本講座の講義内で行い、瀬戸内随一の文化都市としての岡山のポテンシャルにふさわしい文化政策の実施を提言するレポートを作成します。

この活動を支えるために

本講座の運営には多様性に富む、さまざまな団体の理解のもと、賛同の輪も広がりを見せています。(公財)岡山市・スポーツ文化振興財団、(公社)岡山県文化連盟、岡山商工会議所文化観光委員会との共催が決まり、(公財)福武教育文化振興財団の助成と、岡山県、岡山市の教育委員会の後援。ベネッセホールディングス、JR西日本、研精堂印刷、レオマリゾートなどの県内外の企業の資金、人的、資材等の支援を受けています。



PRESS RELEASE

こういった多様な集団・事業において、岡山大学がイニシアチブをとり、地域行政の積極的な関与を促し、地域や関係市民団体、企業との協働を推進・拡張することで、岡山における文化的活動の基盤を整備するための、産官学の連携による協働事業を提案し、岡山の地域課題として《地域芸術文化資源》の保全と運用による「文化意識を育み、人生の質を向上する」ための模索・検証活動を継続的に実践していく所存です。

本年度の国吉祭のイベント

会場 岡山大学鹿田キャンパスJホール（岡山市北区鹿田町2-5-1）

2017年11月25日（土） 11:00～19:00・11月26日（日） 11:00～18:00

入場無料（舞台観劇には別途料金が必要）

- ・ 国吉康雄や獅子舞、コンテンポラリーダンスを取り入れたオリジナル舞台の組成
- ・ 国吉祭2017会場での、体験型ワークショップを中心とした「縁日空間」のプロデュース
- ・ 美術鑑賞プログラムとコンテンポラリーダンス体験の出前講座（小中学校が対象）
- ・ 出石町から表町商店街を散策するフォトラリー
- ・ 国吉祭関連グッズの開発と販売 など

国吉祭 2017・舞台劇製作概要はチラシをご覧ください。

＜お問い合わせ＞

岡山大学大学院教育学研究科

准教授 才士 真司

（電話番号） 086-251-7633